

今回の調査から

1 意識調査から

今回の調査では、平成 18 年度の全ての 5 年目研修受講者、10 年目研修受講者、20 年目研修受講者を対象にアンケートを実施し、授業力向上への取組および授業評価に関する意識について把握しました。その結果からは、授業力向上を図る校内での効果的な取組は、研究授業と授業研究会であるにとらえられていることが明らかになりました。一方、平成 17 年度中の一年間で、約半数の教員が授業研究会を伴う研究授業の実施が 1 回以下であったことも明らかになりました。

授業評価については、児童生徒による授業評価の効果は理解しつつも、未実施者が実施するにあたっては、不安や危惧があることも明らかになりました。

2 調査協力校の実践から

授業評価に関しては、学校評価の一部に位置付けて取り組んでいる学校が 1 校ありましたが、他の 6 校の先生方は、ほとんど未経験でした。したがって、どの学校も子どもによる授業評価の初めての取組であり、不安を抱えてのスタートでした。しかし、実施していくことで、様々な気付きがありました。子どもから学ぶこともたくさんありました。そして、授業評価を生かして授業の改善を図ることで、子どもと共に授業づくりをしているとう実感が生まれてきました。

また、リフレクションの手法を生かした授業研究会は、参観者が多様な見方、考え方を出し合い、教科や学年を超えて教師が学び合う場になっています。

3 この調査研究を通して

しめくくり、調査協力校の先生方の、印象深い感想を紹介します。

- ・ 最初は不安でしたが、実際にやってみたら、不安がなくなった。自分の授業のやり方でいいと自信を持ちました。子どもへの接し方が変わったという先生もいました。
- ・ これまでも、自己評価・感想は書かせていたのですが、授業評価は新鮮でした。児童理解につながりました。記名させると、事後指導に役立てることが出来ます。例えば、教師に対して一人だけ低い評価をしていた子と休み時間に雑談してみたら、次の時間では、目が輝いていました。教師に対する気持ちが変わったのだと思います。
- ・ 最初は、先生方に抵抗がありました。でも、やってみて、不安を一掃できました。子どもの声に納得することもありました。「授業をこんなふうにとらえてくれていたのか。」と思い、励まされることもあります。低学年は低学年なりにきちんと授業のことを考えていることも分かりました。

本冊子では、調査協力校から提供いただいた資料の全てをご紹介できませんでしたが、事例ごとのまとめとして示した「この事例から学ぶこと！」に反映させていただきました。

この冊子が様々に活用され、授業の改善につながることを祈念します。

引用文献

- 『子どもと教育 授業研究入門』(1996年) 稲垣 忠彦・佐藤 学:著 岩波書店
- 『教えながら 教えられながら』(平成元年) 大村 はま:著 共文社
- 『信頼される学校づくりを進めるための学校評価の在り方 - マイスクールプランの作成と活用を通して -』平成16年度長期県有員 A 学校評価研究報告書
宮城県教育研修センター

参考文献

- 『子どもの声を生かした授業評価・改善 - 自己改革を目指す仙台市の教師サポートプロジェクト -』(平成13年) 仙台市教育センター
- 『指導計画改善のために「授業の振り返り」を取り入れた授業評価の考え方と進め方』(平成17年3月) 仙台市教育センター
- 『生徒の視点を生かした授業評価についての研究 - 高等学校における授業改善への活用可能性 -』 青森県教育委員会
- 『「思考力」をはぐくむ学びの創造 - 脳科学研究との連携、授業力を高める校内研修 -』 香川大学教育学部附属坂出小学校
- 『教師の学び合いから授業力を高めよう!』(平成18年3月) 群馬県総合教育センター
- 『学校の挑戦 学びの共同体を創る』(2006年3月) 佐藤 学:著 小学館
- 『夢中・熱中・集中...そして感動 中原小学校の挑戦!』2005年6月
千葉県柏市立中原小学校:著 東洋館出版社
- 『教育相談推進資料「子どもの心が開くとき 子どもと心が通うとき」』
(平成16年3月) 東京都教育相談センター

参考 URL

- 「山梨県教育研究所」授業をひらき 校内研究会をひらき学校を基盤に立ち上げる授業研究会(2月6日)
<http://www.y-kyoken.com/link.ne.jp/kenkyushien01.htm>
- 第13時 - (2) 授業研究の方法
<http://gipvodn1.shinshu-u.ac.jp/el/e04b1/class13/researchmethod.htm>